

佐渡米通信

こめる

2023年 6月号

発行日:2023年6月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

プラスチック殻を流出させない

～浅水代掻きの実施とのぼり旗の設置～

JA佐渡では昨年度からマイクロプラスチック流出防止に取り組んでいます。昨年度の脱プラ被覆肥料の代替試験結果は、慣行肥料と比べて期待通りの穂肥効果が得られませんでした。また、排水口へのネット設置によって捕集された残渣の内、プラスチック被膜が重量で3%含まれていることが判りました。

今年度も取り組みを継続し、改良された肥料の代替試験、プラ殻流出防止ネットの設置、および浅水代掻きを推進していきます。更に脱マイクロプラスチックの取り組みを周知する為ののぼり旗をJA佐渡管内のモデル圃場に設置し、呼びかけ強化を行っています。



流出させない水管理「浅水代掻き」実施とのぼり旗

佐渡の米農家さんにインタビュー

株式会社アクア・グリーン佐渡ヶ島の代表取締役伊藤佐恵子さんにインタビューをさせていただきました。同社は佐渡市内に本社を置き、建設事業を展開する伊藤建設株式会社の関連会社で、お米の生産から販売までを手掛ける農業法人です。耕作面積は23haで、5割減減コシヒカリやこしいぶき、新之助を生産されています。

本事業は、建設事業だけに頼らない新たな事業として、会社の資源やノウハウを活かすため、飲食事業と共に立ち上げられたそうです。農業は特に天候等の自然条件に左右されることから、農作物の生育に合わせて管理する働き方が求められます。伊藤さんは、企業経営者として生産性と働きやすさの両方を考慮した持続可能な就労の整備を推し進め、柔軟な働き方の励行に取り組まれています。新たな事業の立ち上げによって雇用の場も創出されたことで、地元に戻ってきてくれた若者も多くいるそうです。

今年から新たに無農薬無化学肥料栽培(無無栽培)にチャレンジをすることを伺いました。きっかけは、お客様から「農薬を何回まいていますか?」といった問い合わせを頂いたことだったそうです。実際JA佐渡でも無無栽培米の引き合いが増えており、令和4年産は全量販売完了見込みです。

伊藤さんからは「無無栽培のお米が島内小中学校の給食で本格的に採用されるぐらい供給量が確保出来るよう貢献したい」と力強いお言葉を頂きました。



代表取締役
伊藤佐恵子氏

お客様の声から新しいことに少しずつ毎年チャレンジしていますと嬉しそうに語る伊藤さん



佐和田地区



田植え本格始動!!

4月下旬には育苗作業が最盛期を迎えました。今年は高温による品質低下リスクを避けるため田植え時期を5/5~5/10頃を目安としました!!



アンケートのお願い



下1/3部分をPOPとして使いやすいようなレイアウトに変えました。いかがでしょうか?

- 温湯消毒
- 春耕転
- 苗づくり
- 田植え
- 水管理
- 中干し
- 穂肥
- 稲刈り
- 秋耕転
- ふゆみずたんぼ

